

令和5年度

幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園

学校評価委員会（報告書）

令和5年度 幼保連携型認定こども園 常葉大学附属たちばな幼稚園 学校関係者評価表

○ 教育目標 美しい心、よく動く体、豊かな感性と社会性を持った子どもの育成

1 目指す子どもの姿

・明るい子 ・健康な子・がんばる子・心豊かな子

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

項目	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価	関係者評価より
1 明るい子	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる。 ・遊びに意欲的に参加することができる。 ・けじめや協調性を持つことができる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝のひとつときや読み聞かせを通し、話を聞こうとする態度が見られるようになってきた。(0.1) ・保育者が率先して挨拶をしていくことで、少しずつ子どもたちから挨拶ができるようになっていった。(2, 満3) ・朝の挨拶は大きな声で自分からする子が多かった。しかし、ありがとう等が自然に出てこない子が一定数いる事は課題である。(3.4) ・カプラを通し、共に取り組む中で協調性を学ぶことができています。(4) ・元気に挨拶出来る子が増え、気持ちよくスタートすることが出来る様になったが、自分からの挨拶はまだ達成できていない。(5) ・園庭の駐車場の時間が終わるとすぐ戸外に出るようになり、朝から体をダイナミックに動かして遊ぶ事でその後の活動も意欲的に楽しめるようになった。(5) ・次の活動に移行する時など、具体的にイメージを伝え、子どもたち自身でどのような気持ちで取り組んだらよいかを考えられるようにする事で、けじめや協調性を持って取り組めるようにしてきた。(5) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶は基本である。挨拶はシャワーのように子ども達に投げかけてほしい。幼いころから浴びせてあげると、大人になって花開く。 ・挨拶は園の職員だけではなかなか子ども達には伝わらない。家庭でも保護者が率先して挨拶をしたり、「ありがとう」「おかえり」「ただいま」と自然にお互いの受け答えの中で身についていくことを発信すると良いと思う。

<p>2 健康な子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことが好き。 ・病気に負けないからだ。 ・命を大切にすることができる。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の前等、手洗いの習慣がついた。また手洗いの際袖を上にあげようとする事も身についてきている。(0.1) ・体の使い方が上達し、のびのび体を動かして遊ぶことができた。(2) ・手洗いに加え、うがいの習慣もついた。(2.満3) ・時間のある限り園庭に出て、伸び伸びと体全体を使って遊び、走り回り友達と楽しく過ごすことが出来た。(3.満3) ・クラス対抗リレーに意欲的に取り組むようになり、勝負の面白さを感じるようになった。(4) ・蝶の飼育をする中で生き物の生長を身近に感じ、進んで世話をすることができた。(4) ・今年度は年間を通してリレーを楽しみ、その経験を通して体を動かす事が好きになった。また明日も継続したいという気持ちを待つことで、病気にならない体づくりができた。(5) 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体は心を養います。体を鍛えましょう。心が豊かになります。 ・リレーなどで勝つ事と負けることの体験はとても貴重であると思う。 ・園庭に出て遊ぶことは子ども達にとって学びが多く、とても大切なことだと思うので今後も外でたくさん遊ぶようにしてください。
<p>3 がんばる子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から進んで遊び、最後まで頑張ることができる。 ・考えたり、工夫することができる。 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中で友だちの姿を見て真似をしたり、0・1歳児なりに考えたり工夫して遊ぶ姿が見られるようになってきた。(0.1) ・衣類の着脱、身支度など、まずは自分の力でやってみようという気持ちを子ども自身で持つことが出来るようになった。(2) ・ソフトブロックで遊ぶ事に夢中になり、友達とかかわり合いながら楽しむ事が出来た。(満3・3) ・カプラで遊ぶうちにより高く積み上げたいという思いを持つようになり、崩れても再度取り組む諦めない気持ちを養う事ができた。(4) ・遊びの中で子どもの主体性を取り入れる為に、話し合う機会を意図的に作り、自ら考える事で仲間と工夫しながら行事や活動・クッキング等に取り組むことが出来た。(5) ・片付けや自分の身の回りの物の管理など、最後まで責任を持って取り組む事が難しく声掛けが多くなってしまった。その必要性を子ども自身が感じられるような工夫が必要だった。(5) 	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す子どもの姿に向かったの、具体的な姿が見えてきている。 ・子どもの主体性を大切にするためにも、先生方がその環境を第一に考え、工夫していく努力を惜しまないでほしいと思う。

<p>4 心豊かな子</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感謝の気持ちを持つことができる。 ・友だちを思いやることができる。 ・感じたことや考えたことを表現することができる。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの存在に気づき、一緒に遊ぶ楽しさを知り、友だちの持ち物を渡してあげようと気付いて思いやる心が芽生えてきている。(0) ・言葉が増え、友達とやりとりをしながら自分達で遊びを楽しむことができるようになった。(2. 満3) ・友だちとかかわる際に、互いに誘い合い、困っている子がいると声を掛ける事ができるようになってきた反面、自分が優先となってしまう事も多い。都度、相手の気持ちや思いを考えられるよう声を掛けてきたが、声掛けの仕方により工夫が必要であった。(3. 4) ・友だちを遊びに誘ったり、困っている子を助けようとする姿が見られたり、年下の子に思いやりの気持ちを持って自らかかわりを持ち、共に遊ぶ姿も多くなった。その反面で次の遊びに移る時に、自分の事を優先してしまい、使った物やそのままになってしまう場面が多かった。(5) 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人と関わり、様々な体験をすることが子ども達の成長にとって、とても大切なことだと思う。 ・年下の子に優しくできるということは、子ども自身も自身が他の人から優しくされた経験があるからということが言えると思う。
--------------------	---	----------	--	----------	---

2 運営の重点

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

学年	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価	関係者評価より
1 幼保連携型認定こども園としての円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・課題等に対する職員の協働態勢の推進 ・職員の健康維持やワークライフバランスに対応した働き過ぎの防止（働き方改革関連の法改正への対応） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・業務分担の整理がスムーズに行えなかった。効率的に進めていく為に、業務のバランスを意識し明確に分担できるよう努める必要がある。 ・0.1.2 歳児クラス担任は、保育室を離れる事がなかなか難しい面があるが、職員で協力し合って業務の伝達や話し合いへできる限り参加していった。今後もより良い方法を考え、工夫していきたい。 ・日々の生活や行事等、学年の垣根を超え、声を掛け合い協力しながら取り組む姿勢を大切にしたいと思っている。 ・課題に対して話し合いを重ね、改善策を出し協力する体制が整ってきたので、今後も続けていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・専任職員と非常勤職員のコミュニケーションを大切に、常に同じ方向を向いて行動ができるようにしてほしい。 ・先生方のチームワークが良いと温かい保育につながると思う。 ・全職員のまとまりを作る難しさに対し、今後も工夫を重ねてほしい。
2 子どもの健康・安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりの健康状況の把握と、職員間での適切な情報共有に努める。 ・子どもが安全に過ごせる園の環境づくりに努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな子どもの育ちや安心安全に留意しながら保育ができるよう、全職員で情報共有する時間を確保し、共に学び合える研修の時間を大切にしていきたい。 ・子どもの体調の変化や怪我等は管理職に報告し、クラス担任と全職員で共有したり、多くの目で注意して見ることができるようになっている。 ・園庭環境について話し合う研修を行なった。園庭の危険箇所を共有し、異年齢が交わりながら安全に遊べるよう職員間で考え合い、園庭環境づくりに努めていった。今後も引き続き行っていきたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページのリニューアルは園選びの選定のひとつとなる。 ・危機管理について、全職員の意識を高めてください。 ・危機管理をいつも忘れずに、いろいろな方向から進んでいくことができるよう考えていく機会をつくってほしい。

<p>3 充実した 保育・教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の三つの柱と、その具体的目標である幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿を念頭においた質の高い保育・教育に努める。 ・遊びを主とした、子どもの主体的な取り組みを促す環境づくりに努める。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が主体となり遊びを進めていくことを心掛けていった。保育者が答えを導いてしまうのではなく、子供達が試行錯誤しながら学びに繋がるような援助を行った。時間はかかるが、子供達同士の対話を大切にしながら協同活動を多く取り入れることで遊びの盛り上がりが見られた。これからも保育者と子供達が保育を作り上げることを大切にしていきたい。 ・育ってほしい 10 の姿を意識しているが、幼児理解の読み取りが不十分などところがある。 	<p>(A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・試行錯誤しながら社会を学べるように、これからも大切に設定してください。 ・「聞く力」は、子ども達のこれからの学びを進める上でとても重要な要素だと考えます。
<p>4 園行事の 適切な実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主旨や目的を明確にした、子どもが充実感や達成感を育む園行事の計画・実施に努める。 ・保護者支援や地域への情報発信に努める。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスが5類となり、行事に参加ができる人数を増やし従来の形に近付けていった。また、自由参加の参観も数回設ける事で、園に対する保護者の理解を深められるようにしていった。ただ、地域との連携が薄くなっていたように感じる。今後工夫が必要。 ・園行事に関して、昨年度の反省を生かして話し合いを重ね、皆で進め取り組むことができたと思う。 ・主旨、目的を共有しそれに基づいた計画を立てようという意識は基本として持って取り組んでいる。 ・情報発信としてブログを活用し、出来る範囲で行っているが、ブログ、てのりの(動画配信)共に、個人情報の観点から配信するまでのチェックをより厳しくしたこともあり、配信までに時間がかかる。次年度は名札を回転式の物にし、写真撮影や動画を取る際に個人が特定されないよう配慮できるようにする予定でいる。また、個人がはっきりとわかるものよりも、園全体の雰囲気分かるものを今後配信しようかと考えている。丁寧に対応できるよう心掛けたい。 	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園行事を通しての地域とのつながりについては、情報収集などを工夫し取り組んでください。 ・地域ともっと連携してほしい。児童館での子育てサロンに来ていただいたり、地域との関わりを深めてほしい。

5 連携	<ul style="list-style-type: none"> 大学、短期大学部及び附属園・校との研修協力、実習協力、交流等を行い、附属園としての役割遂行に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 大学・短期大学部・中高は交流実習などの受け入れができた。小学校との連携は、5歳児が小学校に行き、校舎を見学させていただいた後、リレーを行い応援していただいた。その後グラウンドで一緒に遊ぶ事が出来た。幼小連携が重要とされているので、今後も積極的にこちらからアプローチしていき、交流を図りたい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の仕事の良さを学生達に伝えてください。 連携は附属園としてのセールスポイントとなるので、その点を伝えてほしい。
6 職員及び職員組織の力量の向上	<ul style="list-style-type: none"> 職員各自の自己目標の設定、進捗状況の確認や評価を行い、意識化を高めた取り組みを促す。 OJTの意識を持った日常的な研鑽をすすめ、園全体で取り組む研修に向けた協同的な研修による力量の向上に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 園内、外の研修に積極的に足を運び保育活動、質を高めていけるよう努めた。 園内研修では、園庭環境について2年目を迎えた。今年度は「わくわくする園庭を作ろう」のテーマを掲げ、園庭環境を大切にしながら改善点や夢を挙げ、子供達が夢中になって遊びを楽しめるよう整備に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ハード面を主においたがまだ整備や道具材料の準備が整っていないところがあるので全力を挙げていきたい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も様々な取り組みを工夫して、全職員で行ったことは素晴らしいことだと思う。 今後も計画的な職員研修を進めてほしい。

3 各学年の重点

A 達成 B ほぼ達成 C 努力が必要 D 達成できていない

学年	具体的な目標	自己評価	結果・課題	関係者評価	関係者評価より
0 歳児	<p>一人ひとりの生活リズムを大切にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> よく眠り よく遊び よく飲み機嫌よく過ごす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生活リズムに合わせて安心して生活できるよう保育を進めてきた。 保育者や友達と触れ合う中で心を通わせながら楽しく遊ぶ経験をした。 生活の中で徐々に言葉の意味を理解し行動に結びついたり、喃語を話したりするようになった。 排泄面では、嫌がらずにおまるやトイレに座る事ができるようになり、タイミングが合えば排泄する子もいた。 食事面では月齢差が大きい為個々に合わせて手掴み食べからスプーンに移行している。イヤイヤ期に入り好き嫌い等の自己主張をする子もいるので励まし無理のない様援助しながら行っている。 異年齢の友達と遊ぶ機会があったことで、水、泥遊び等でダイナミックに遊んだり、真似をしてやってみようとしたり、考えて工夫する姿も見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 0 歳は、保護者から離れて園に来る、ただそれだけでもすごいと思う。初めての集団生活の中で、友達や保育者と関わり合いながら、のびのびと遊ぶ楽しさを味わってほしい。
1 歳児	<p>一人ひとりの生活リズムを大切に機嫌よく 1 日を過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> よく食べ、よく眠る規則正しいリズムで生活できる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 月齢差や個々の成長の違いがあり、トイレトレーニングや衣服の着脱、逆手持ちへの移行等の生活習慣を身につけていくのが難しかった。 「2 語文」、「3 語文」の言葉が増えてきて少しずつ保育者や友達と言葉でやりとりができるようになってきた。 一人ひとりが好きな遊びをみつけて夢中になって楽しく遊ぶことができるようになった。 初めの頃は、午睡時眠りが浅かったが、園生活のリズムが整ってくると安心し、眠りも深くなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 家庭と連携して、互いに様子を把握することで今後のトイレトレーニング等の進め方に役立つこともあると思う。

2歳児	<p>一人ひとりに合った生活リズムに添って一日過ごす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく遊び、よく食べ、よく眠る規則正しい生活リズムで機嫌よく落ち着いて生活できる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり一人のペースを見守りながら、安心していろいろなことに挑戦することができるよう援助していった。年度の後半は、進級に向けて期待を高め、自信を持って進級の時を迎えられるように年少移行への準備を少しずつ取り入れていった。 ・生活習慣の自立もおおよそ身に付き、自分の力で取り組もうとする姿が多く見られるようになった。 ・子どもの姿やその時々取り組みについて保護者に伝えていく事で、園と保護者が連携して子どもの育ちを支えていけるよう意識していった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣等を身に付けていくことは、園だけではできない。家庭と協力していくためにも、連携の工夫を考えてほしい。
満3歳児	<p>幼稚園に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育教諭や友だちと一緒に安心して過ごす。 ・好きな遊びを楽しむ。 ・基本的な生活習慣をすすめる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・入園の時期がそれぞれ異なるため、一人ひとりに丁寧に向き合い、一緒に行くことで安心感を持てる対応を心がけてきた。物事の過程を大切に考え、意欲的に取り組めた時は大いに褒めるようにした。 ・排泄や食事、衣服の扱い等それぞれの、時期に合わせて個別に対応し、先に入園した友だちの良い影響を受けられるよう努めてきた。 ・毎日、元気に挨拶をすることで、自ら挨拶が出来る様になり、日々の積み重ねの大切さを感じたが、照れてしまて言えない時もあった。 ・子どもたちの日常の様子は、連絡帳やお迎えの際に口頭で様子を伝えるようにしてきた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、小、中学校でも同じようにできていない。子どもはやっているつもりでも、大人からはできていないというアンケート結果を目にすることがある。保護者が率先して挨拶をすることが子どもにとって良い影響を与えると考えます。
3歳児	<p>友だちや保育教諭と一緒に好きな遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を身につける。 ・好きな遊びをのびのび楽しむ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活の仕方を丁寧に繰り返し伝えることで、身につけていくことができた。自分でできるようになったことは認め、自信を持てるようにした。 ・教師が話をするとき、顔を見て話を聞こうとする姿勢が身につけてきている。 ・園生活に慣れ、安心して遊びに参加するようになり、友達と一緒に遊ぶことの楽しさを味わうことができるようになった。 ・物の取り合いが多く見られたが、互いの思いを言葉で伝えることができるように、教師と一緒に向き合うようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・話をよく聞くことができるということは、自分でよく考えて動くことができるということ。今後も、大切にしてください。

<p>4 歳児</p>	<p>いろいろな遊びに興味を持ち、友だちとの生活を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと一緒に過ごす心地よさを味わう。 ・園生活のルールに気付く。 ・自分で好きな遊びを見つけ充実感を味わう。 	<p style="text-align: center;">B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな遊びを見つけ、のびのびと楽しむことができた。カプラや戸外遊びも積極的に行い、遊びを通して友達とのかかわりも増え、思いを伝え合い、イメージを共有しながら遊びを進めることができるようになっていった。 ・自分の思いを押し通そうとするなどトラブルになることも多かったが、その都度対応をし、自分はどのような思いであったかを聞くとともに、相手の気持ちについても共に考えられるようになってきた。 ・遊びや行事を通して思いやりの気持ちが育ち、自然と助け合ったり、励まし合ったりする姿が見られるようになってきている。 ・集団生活のルールを意識し、守ろうとしたり、落ち着いて話を聞いたりすることができるようになってきたが、個人差がある。細かく対応してきたが、引き続き課題が残る点である。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外で遊ぶことは、子ども達にとってなくてはならないものです。これからも、外でのびのびと遊ぶ時間を作ってください。
<p>5 歳児</p>	<p>友だちと夢中になって遊び、認め合う気持ちを持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して、友だちの思いを受け入れようとする。 ・集団で遊ぶ楽しさを感じる。 ・人の話を聞こうとする。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当初は初めての事に対して慎重な子も多く、どう取り組んだらよいか分からずいる子も多かったが、意図的に集団で活動する遊びや行事を取り入れる事で、自分の思いが伝えられるようになり、新しい友達が出来て、仲間と意欲的に楽しむ姿が多く見られるようになった。その中で、自分でやりたいことを見つけ、楽しむ姿が多く見られた。遊びの中で、自分で考える力も培われていたと感じる。 ・今年度は年間を通して計 85 回リレーを楽しんできた。この遊びを通して何度も作戦会議をする中で、話し合う力が身に付き、クラスの団結も深まり、集団で遊ぶ楽しさを感じる事ができた。 ・話を聞くことの大切さや、落ち着いて行動することの大切さは、繰り返し伝えていった。個人差はあるものの、少しずつ意識の変化も見られていき、集団としての育ちが感じられるようになっていった。 	<p style="text-align: center;">A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス対抗リレーの他にも色々な種目を行って行くことも楽しそうだと思う。 ・リレーを 85 回も行ったということが、どれだけ子ども達の成長のプラスになったことであるか。素晴らしい。